

## 住民説明会での質疑とその回答について

	意見・指摘事項	対応
1	旧空港地域である J A X A 研究施設 予定地周辺はどのような予定であるか。 また、市街化調整区域のままであるの か。	J A X A 研究施設が予定されている周辺地域につ いては、愛知県が用地取得し、空港関連施設と試験研 究施設として活用される予定となっている。 区域区分については、これまでどおり市街化調整区 域のまま土地利用が図られると聞いている。
2	線引き見直し（市街化区域、市街化調 整区域の見直し）はどうなるのか。また、 青山地域に市街化調整区域が集中して いるが、この点地域の意見は反映された か。	線引き見直しについては、旧空港区域のうち、三菱 重工業（株）が取得した地域と空港ビル（株）が取得 した地域を市街化区域へ編入する計画で事務を進め ている。 市街化区域への編入には、「都市的な土地利用が既 に図られている、もしくは、その計画が確実に行われ る場合に限る。」という一定の条件を満たす必要があ り、高添、神明、金剛などの市街化調整区域の編入は 困難と考える。 「地域の意見は反映されたか」については、まちづ くりを考える場所として、都市計画マスタープランワ ークショップを開催し、地域の意見を反映できるよう に努めている。
3	市街化調整区域における民間の開発 計画が数多くあると聞いているが、現 状、仮に地域住民にとって問題があり、 地域的にも問題がある計画であるとし ても、町は何も対応しないのか。	本町の市街化調整区域は、一定の条件を満たせば開 発可能な土地であります。 具体的には「住宅、流通業務施設、技術先端型業種 の工場・研究所」などの目的での開発は、適正な開発 として認められている。 したがって、法律で許容される開発を規制すること は困難であり、町の対応はその範囲に限られる。 一方、町としては航空宇宙産業をより一層集積した いと考えているが、その集積のための仕組みは早急に 検討しなければならないと考える。
4	町民の意見の集約方法、ワークショッ プの参加者の募集方法、ワークショッ プの開催実績はどのようになっているの か。	都市計画マスタープランの見直しにあたっては、通 常、町民アンケートを実施し、町民のニーズの把握に 努めるが、今回は、同時に見直しが行われている町総 合計画での町民アンケート結果をもとに意見集約を 行った。 ワークショップの参加者の募集は広報により行っ た。同時に本町の全域より参加者を募っていたこと から、一部の参加者は地域へ選出をお願いし、全体で 31名の参加を得ることができた。

意見・指摘事項		対応
		<p>ワークショップの開催実績は、11月、12月、1月、2月と、月1回の4回開催した。</p> <p>概要としては、まず全員で町内の町歩き、各自のアイデアの抽出と集約、その実施に向けた手法の提案までを行った。</p>
5	<p>旧国際線旅客ターミナル地域は市街化調整区域地区計画により土地利用が図られているが、次期、線引き見直し（案）では近隣商業地域で市街化区域へ編入を考えているとの説明があった。</p> <p>近隣商業地域の建ぺい率と容積率は、それぞれ80%、200%と凡例では記載されているが、その内容で理解してよいか。</p>	<p>旧国際線旅客ターミナル地域は林先地区計画により建ぺい率、容積率を定めている。当該地域を近隣商業地域として市街化区域へ編入した後の林先地区計画については内容の変更を予定としている。変更の概要としては、一定の建物用途の制限を予定しており、建ぺい率、容積率についても、空港隣接地域でもあることから、現状の60%、200%のままとする計画である。したがって、他の近隣商業地域では建ぺい率が80%としているが、当該地域は60%に地区計画により制限する考えである。</p>